

埋文ふじのみや

MAIBUN

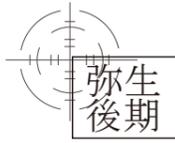
Vol.9



丸ヶ谷戸遺跡（前方後方形周溝墓）

気軽に出掛けるのが難しい今日この頃。Youtube で国内外の観光地の映像を見て旅行気分を味わうのもいいですが、地元富士宮の縄文時代や弥生時代の遺跡に思いを馳せる時間旅行もおススメです（富士宮市のホームページでは今までの『埋文ふじのみや』を見ることができます）。数万年前から、人々はこの地で数々の困難を乗り越えてきたはず。

日常が戻ってきたら、ぜひ本物の土器や石器を見に、埋蔵文化財センターへ遊びに来てくださいね。



Takido 滝戸遺跡

たきどいせき

富士宮市野中

調査年 /
1976年・1977年
1979年・1987年
2006年

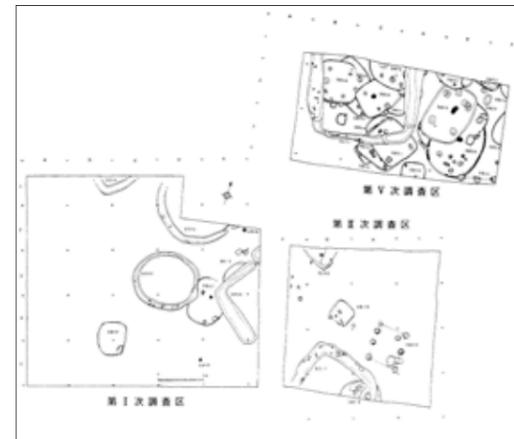


弥生後期の集落と墓地

滝戸遺跡は、第三中学校の校庭を中心として広がる縄文時代からの複合遺跡です。弥生時代後期前半から古墳時代前期初頭では、大きな集落が築かれます。これまで竪穴建物37棟、掘立柱建物3棟、方形周溝墓15基が見つかっています。第三中学校の校舎付近が村の中心となり、竪穴建物と掘立柱建物が集中して築かれていました。そして、その周辺に方形周溝墓が群を構成して広がっていました。方形周溝墓は、村のリーダーの墓と考えられますが、滝戸遺跡の村以外に潤井川を挟んで対岸にある泉遺跡の村なども関わっていたものと考えられます。

古墳時代前期後半になると再び方形周溝墓が築かれますが、それは、竪穴建物が数多く建てられていた場所に当たります。このころ、新たに墓地として遺跡が営まれていたことが分かります。

報告書 / 『滝戸遺跡』1997年
『滝戸遺跡II』2007年

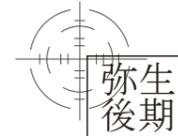


発掘調査区全体図



壺（後列）と（右から）小形台付甕、台付鉢、埴、小形土器

Takido



Nambugayato 南部谷戸遺跡

なんぶがやといせき

富士宮市黒

調査年 / 1972年



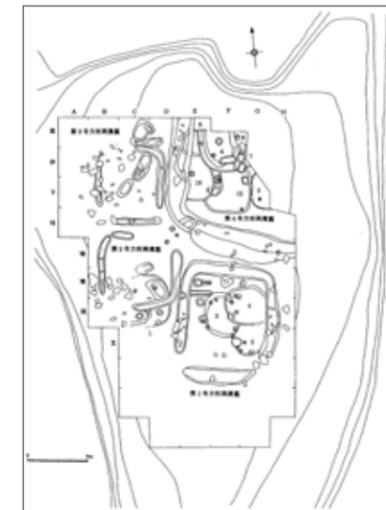
集落廃絶後の方形周溝墓

南部谷戸遺跡は、潤井川の星山放水路の取入れ口に位置し、かつては古潤井川の河岸段丘上にありましたが、放水路の工事で消失しています。弥生時代後期の竪穴建物12棟、掘立柱建物1棟と古墳時代前期前半の方形周溝墓が4基見つかります。時代の経過とともに村から墓地へ大きく変化していることが分かる遺跡です。方形周溝墓の中には溝の一边が15mを超えるものと思われる大型の方形周溝墓もありました。富士地域において最大の大きさを測

るものです。古墳時代となって身分の違いを反映していた可能性が指摘されます。

なお、第3号方形周溝墓からは、埋葬されたリーダーの地位に関わると考えられる硬玉製の勾玉と滑石性の磨製石鏃が出土しています。

報告書 / 『月の輪遺跡群』1981年



発掘調査全体図



台付甕



硬玉製勾玉

Nambugayato

弥生後期
～古墳

Shiroyama 城山遺跡

しろやまいせき

富士宮市大宮

調査年 / 2013 年



弥生後期の 方形周溝墓群

城山遺跡は、城山公園一帯に広がる遺跡で、公園の北西側で弥生時代後期後半1基、古墳時代前期前半2基の方形周溝墓がそれぞれ見つかっています。弥生時代後期の方形周溝墓は、一辺 6.7m を測ります。古墳時代前期のものは、9.2m を測る大きなものと 2.9m × 3.6m を測る小型のものがありました。方形周溝墓の溝の中からは、壺の底部や胴部に穴の開けられた土器が出土しています。穴は普通の土器に開けたもので、あえて使えないものとしていました。

これは、埋葬に伴う儀礼で使用された土器を再び使用することがないように、除霊的な行為がなされた結果とされています。

報告書 / 『富士宮市の遺跡 V』 2016 年



第1号方形周溝墓跡



発掘調査全体図



周溝内出土壺と甕 (右)



壺の底部穿孔土器

Shiroyama

弥生後期
～古墳初頭

Marugaito 丸ヶ谷戸遺跡

まるがいといせき

富士宮市大岩

調査年 / 1989 年

1990 年・2000 年

2012 年



古墳のはじまりと 前方後方墳

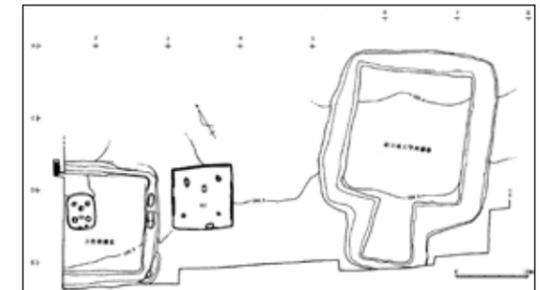
丸ヶ谷戸遺跡は、弓沢川左岸の丘陵に築かれた古墳時代前期に地域の中心となった遺跡です。丸ヶ谷戸遺跡には、全長 26m を測る前方後方墳が見ついています。この古墳の西側には、前方部と同じ大きさの竪穴建物と古墳の 1/2 の大きさとなる方形周溝墓が築かれていました。相互に関連のある施設と考えられています。竪穴建

物は、墓前祭祀に関わる施設だった可能性が考えられます。丸ヶ谷戸古墳に埋葬された人は、この地域を治めたリーダーと考えられます。丸ヶ谷戸古墳の登場により、東日本でもいち早く、この地域に地域を支配したリーダーの登場がうかがえるものです。

報告書 / 『丸ヶ谷戸遺跡』 1991 年
『丸ヶ谷戸遺跡 II』 2001 年
『丸ヶ谷戸遺跡 III』 2013 年



高杯



発掘調査全体図



壺・甕・柑・小形土器各種 (手前)

Marugaito

プロフェッショナル
に
聞いてみよう

やっぱり気になるこのギモン！！

教えて 学芸員さ～ん！



これまで『埋文ふじのみや』では、埋文の仕事や様々な遺跡について紹介してきましたが、ふと湧いてくるギモン、ありませんか？ここでは誰もが抱くそんなギモンに、埋文センターの学芸員さんに答えてもらいました！

Q 富士宮市内に遺跡はいくつあるの？

A 現在、富士宮市には250か所ほどの遺跡があります。古いものは今から20,000～15,000年前の後期旧石器時代に遡るものがあり、新しいものでは近世（おおむね江戸時代に相当します）までの遺跡があります。またその中には、大鹿窪遺跡や千居遺跡のような国指定の重要な遺跡もあります。

Q 土から出てきたものの年代ってどうしてわかるの？

A 考古学では、モノのカタチの変化を研究する型式学研究とモノが出土した土層から新旧を推測する層位学研究により相対年代（どちらのモノが新しく古いか）を考えます。これに加え、出土した年代がわかっているモノや科学分析によりわかる絶対年代（およそ何年前のものか）を組み合わせた研究の蓄積によって推測しています。

A 山宮浅間神社遺跡では、今から約900～800年前の12世紀に造られたと考えられる遥拝所（遠くから眺めて、拝む場所）が確認されているため、この時代には当時の人々も富士山を眺めていたと考えられます。

また、時代は遡り今からおよそ5,500～4,500年前の縄文時代中期の遺跡である千居遺跡では人為的に並べられた石の列が発見されています。この場で「マツリ」を行い、富士山を眺めていた可能性があります。

Q 昔の人々も富士山にかかる笠雲を見て「近いうちに雨が降るかも！」と天気を予想していたかもしれませんね。富士山を眺めていたのかな？

Q 富士宮にはいつから人が住んでいたの？

A 住んでいたかははっきりしませんが、下高原遺跡は今から約20,000～15,000年前の遺跡で狩りに使う道具をはじめとした様々な石器が出土しており、少なくともこの時期には富士宮の地を踏んだ人々がいたと考えられます。

時代は少し進みますが、13,000年ほど前の縄文時代草創期の大鹿窪遺跡では当時の人々が定住した痕跡が残っており、日本で最古の定住集落として国指定史跡にも登録されています。

遺跡から富士宮の原始・古代を考える 邪馬台国時代の富士宮

I. 邪馬台国時代

前号まで長々と前夜の様子を書き連ねていましたが、いよいよ、邪馬台国時代へ突入しましょう。前夜の弥生時代後期に滝戸遺跡や泉遺跡、月の輪上遺跡などが登場し、富士宮の地域も賑やかになることは、すでに示しましたが、時代が過ぎ『魏志倭人伝』に記された邪馬台国が登場し、卑弥呼が国を治めるようになったと思われる2世紀後半以降、各地域は大きな社会的な変化が実感できる遺跡が登場するようになります。邪馬台国がどこにあったか、江戸時代からの論争として現在まで続くもので、その決着はまだ着いていません。富士山の西南麓のこの地域は、邪馬台国とどのような関係にあったのでしょうか。大きな時代の画期に対して、我々の住むこの地域は、どのような変革を迎えたのでしょうか。時代の変化を発見された遺跡を通して考えてみることにします。2世紀から3世紀の歴史は、中国の歴史書に示された記述の他に、日本の歴史を表したとされる『日本書紀』や『古事記』に登場するものでもあります。

富士宮市大岩にある丸ヶ谷戸遺跡では、全長26mを測る前方後方形を示した墓が見つかっています。私は、これを古墳、つまり前後に2つの四角連結させた前方後方墳として「丸ヶ谷戸古墳」と呼んでいます。滝戸遺跡などに見られた四角く区切った方形周溝墓とは、大きく違う墓が登場したこととなります。墓に関わる儀式の変化は、社

学芸員の連載コラム 考古学への招待



渡井英誉
富士宮市埋蔵文化財
センター学芸員

会の構造自体の変化と直結するものと考えています。

「丸ヶ谷戸古墳」が登場した頃、この地域における遺跡も大きく変わります。小泉では、権現遺跡、上石敷遺跡などが築かれます。また、星山では、月の輪平遺跡が登場し、南部谷戸遺跡の方形周溝墓群が築かれるようになります。弥生時代に拠点的な遺跡であった滝戸遺跡については、規模を小さくしますが、潤井川を挟んで対岸に広がる泉遺跡は、その規模が大きくなります。このように、地域一帯に数多くの遺跡が築かれるようになったことが、これまでの発掘調査で分かるようになってきました。

丸ヶ谷戸古墳については、詳しく次号で説明させていただきます。この地域がどのように日本の歴史と関わったのか。「邪馬台国時代の富士宮」をキーワードに考えてみたいと思います。そして、国とは、国家とは、何だろうか？最終的な検討課題です。そこまで踏み込めればいいのですが。



堅穴建物と前方後方墳

次号の案内

富士宮市内で見つかった

古墳時代の遺跡～古墳にコーフン～

古墳時代とは…

弥生時代に本格化した稲作の技術は、古墳時代に入るとますます進歩して、生産力も向上し、安定していきます。それはまた、人々に貧富の差を生み出し、やがて、より大きな権力を持った豪族が各地に出現するようになりました。彼らは自分の支配する土地に巨大な墓（古墳）を造り、その権力を誇示しました。このように古墳を造ることは、大和國家の発展、すなわち、国土統一とともに全国に広まりました。この時代を古墳時代（3～7世紀）と言い、便宜上、前・中・後期の3時期に区別されています。



提瓶（須恵器）

【刊行物のお知らせ】

『富士山噴火の考古学 —火山と人類の共生史—』

富士山考古学研究会編（吉川弘文館）

4,500円＋税 令和2年6月末日刊行予定（一般書店にて取扱い）

降り積もった火山灰は何を語るのか？ 歴史・考古学から未来への提言。

※イベント情報『富士宮市の見どころ案内』は新型コロナウイルス拡大防止対策により、市内各地のイベント開催が不確定のため、お休みします。

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地 〒419-0315

静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日

* 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

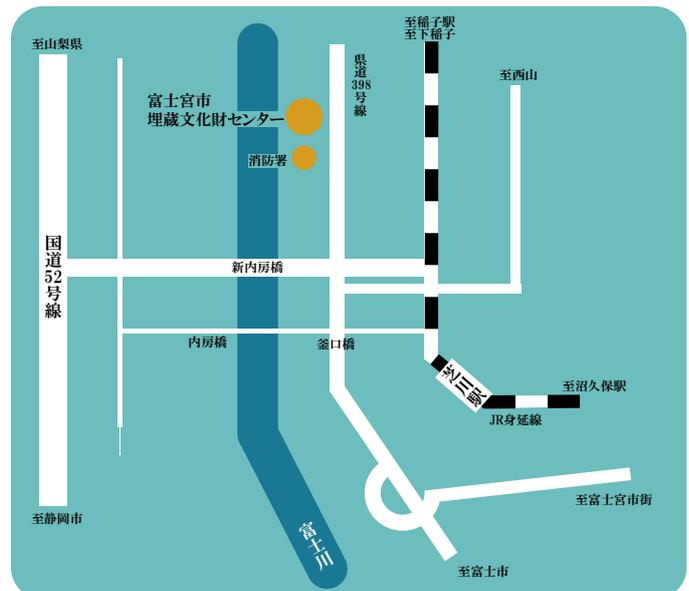
* 埋蔵文化財センターの業務時間は
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり（無料）



交通案内



富士宮市埋蔵文化財センターだより

埋文ふじのみや Vol.9

令和2年6月

編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター

※『埋文ふじのみや』はバックナンバーを含め、富士宮市のホームページでご覧になれます